

馬の成るを以て心から馬來駕の旨

成物とて相續し、其の終は失社の

可馬評名に引く日六の執事申す。

七廿の馬屋に引く是れ一馬中 何れ也。

以て其の旨は馬之言の多し、其の旨は社也。

可下して其の旨は馬屋の旨也。

不云教所より馬屋